

土の力

一二三朋子

土を食ふ文化、南米及び阿弗利加、亜細亜など世界各地にあるなり。我もかつて、土を供する西洋料理店にて、土を食せしことあり。およそ三十年以上も前のことにて、味の記憶はさらになし。土を高温殺菌し、水にて煮たる後、箸にて砂及び小石を除き、さらに布にて裏ごしせる泥状のものを使用するとの由。

現代社會に於いて土は汚きもの、不潔なるものと思はれがちなり。土など斷じて口に入るべきものにあらざらむ。土の付きたる大根、人參、芋等、土を綺麗に洗ひ流さずば汚しといはれむ。

なれど、土は生命の源なり。

「奇蹟のリンゴ」とて世に知られたる青森の木村秋則氏、完全無農薬無肥料にて林檎栽培に成功せられしも、その祕訣なむ土にあるなる。木村氏、かく語りき。「土は多様な微生物の塊なり。なれど、土壌消毒などの農作業によりて、農地の微生物の数も種類も、いと少なくなりぬ。かくして、土壌微生物の多様性均衡を失ひ、抵抗力を失へば、害虫なむ異常發生する。かつ病氣が猛威をふるひたれば、ますます農薬などの化学對處療法に頼らざるを得ず。悪循環に陥りぬるが現代農業の實態ならずや」

農業と關はりなれど、土いぢりの效果も侮るべからず。土いぢりなむ、精神の安定、免疫調節機能の向上、腦の活性化、全身運動、達成感の向上、人との交流促進など、多面的の健康増進に役立つなる。

かかる恩恵をもたらす土なれど、人の力にて作ること能はず。

先づ、土は、砂及び粘土などの無機物のみにあらず。動植物の死骸の混じり、微生物により分解せられて生成せられ、自己再生産する自律的機構を有する生命の如きものなり。

次に、土は、大匙一杯の中に一萬種類もの細菌、百億個も生息する多様性の塊なり。それらの微生物が役割を分担しつつ協調を通じ、例へば落ち葉の分解など、様々な活動をするなり。

さらに、土の形成には膨大な時間を要す。一センチの厚さの土の形成せらるるまでに百年ないし一千年かかるとの由。

現在の陸上の生態系と土との關係は、過去五億年にわたる生物の相互作用と試行錯誤によりて到達せる「最適解」とぞ言ふ人あり。

多様にして複雑なる生命活動の絡み合ふ機構を人工的に再現するは、極めて困難なり。かつ時間的にも人間の再現し得ざる規模の長さなり。

昨今、イスラム教徒の土葬、問題となれり。現代の日本に於いて土葬は難しけれど、死した後、土に還らば、死は死にして死にあらざらむ。新しき命に生まれ變はらむこそ、めでたけれ。

（令和八年二月七日受附）